

下野市立南河内第二中学校

1 学校課題

自ら課題をもち、共に学び合い、深い学びに向かう生徒の育成
～各教科の指導における学習過程の工夫を通して～

2 研究計画

(1) 研究のねらい

各教科の指導における学習過程の工夫を通し、自ら学び、考えを伝え合い深い学びの実現にむけた生徒の育成を目指す。そこで、それらを育てるためには、教師がねらいや課題をどのように設定したら良いのか、また、深い学びにつながるためにはどのような学習形態や指導方法の工夫が必要かなどについて、各教科で話し合い、それぞれの教科の特性を考慮の上、追究していく必要があるのではないかという考えのもと、この研究主題を設定した。

(2) 学校課題の研究によって目指す生徒像

自ら進んで学び、互いに伝え合い深め合いながら、ねばり強く追究する生徒

(3) 研究目的・内容

学校課題に基づいて、以下の3点について、実践や検証をすることで、今後の学習指導の向上に資することを目的とする。

- ①ねらいの明確化・課題設定の工夫
- ②深い学びにつながる学習形態や指導方法の工夫
- ③振り返り（ねらいに対する振り返り・自己評価や相互評価）の研究と実践

(4) 研究方法

- ①授業の導入で「何ができたらよいか」を教師と生徒が共有する。そのために、学ぶ意欲を高める教材開発（期待が高まる課題づくり）や課題提示（学びの必然性が高まる課題づくり）を工夫する。
- ②各教科で單元ごとの目標をふまえ課題設定を行うとともに、有効と思われる授業形態（探究型や討論型）や指導方法等を考える。また、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、「深い学び」が実現できるような資料の提示・ゆさぶりの発問を検討する。
- ③「振り返り（まとめ）」の時間を確保することで、学びの達成感や新たな課題を見いだす力の育成につなげる。また、新たな課題への意欲につなげる学びの修正ができる振り返りを通して生徒の実態を分析し、言語活動の質の向上に努める。

(5) 研究手順

- ① 4月 各教科部会で研究計画の作成・研究のポイント・目指す生徒像の設定
評価計画・指導計画・学習課題設定についての検討
4月18日 全国学力状況調査実施（3年）
" とちぎっ子学習状況調査実施（2年）
" 教研式標準学力検査（1年）
- ② 7月 とちぎっ子学習状況調査及び教研式標準学力検査の分析。
各教科で評価計画及び指導計画について検討
- ② 10月 全国学力学習状況調査の分析
各教科部会で評価計画及び指導計画の修正及び自校化について検討
- ④ 『言語活動』に関する研究授業・授業研究会の実施
9月 社会・英語・技術家庭（S&Uコラボ事業・要請訪問）
11月 学活（要請訪問） ※学活と道徳を隔年で実施。研究テーマによっては、変更あり。
- ⑤ 12月 教科部会で研究報告の作成
*前期（6月）・後期（11月）に道徳を語る会を実施

3 研究内容

(1) 「学ぶ意欲を高めるために課題設定をどのように工夫したか」

- ・各授業の見通しを掲示し、習得させたい能力に関連した問題を解かせた。（国語）
- ・生徒の「なぜ？」という疑問から学習課題を設定し、既存の知識や経験・スキルを駆使して解決できるよう配慮した。（社会）
- ・教科書を見ずに、自分で考えたり、友人と教え合ったりして理解できるよう課題設定を工夫した。また、個人差を考慮し、能力の高い生徒が意欲的に取り組めるようチャレンジ問題を用意し、問題を解く際に生じる時間差を補った。（数学）

- ・実社会や実生活との関連を意識して授業を展開するよう心がけ、生徒が日常生活で興味・関心をもったことや疑問に感じたことを授業の中で学習内容と関連付けて捉える学習場面を設けた。(理科)
- ・意見や発表を人前で披露することを目標に設定し、それに向けた話合いや教え合う活動を授業の中に位置付けるようにした。(音楽)
- ・教師が身近な題材を用いて実際に作品を作って見せた。完成品だけでなく、完成までの過程を作業ごとに提示したことで、作業の流れや留意点が明確になり生徒の制作意欲の向上につながった。(美術)
- ・生徒の能力にあった適切な課題設定や意欲を高める環境作り、目標を達成するために必要な段階的指導を心がけた。(保健体育)
- ・身近な事柄や実生活と結びつけて考えられるような課題を設定した。学習したことが生活の中でどのように使われているかを考えさせるようにした。(技術)
- ・授業に意欲的に取り組めるよう、自分の生活を振り返り、実生活の中から課題を見つけられるよう提起した。(家庭)
- ・ICTを活用したイントロダクションやプレゼンテーションを授業に取り入れ、様々な情報をインプットするよう努めた。また、自然な発話につながるよう言語の使用場面を考慮し課題の設定を行うようにした。課題についてもレベル別課題を準備し、意欲・能力に応じて課題を自ら選択して取り組めるよう配慮した。(英語)

- (2) 深い学びにつながる学習形態や指導方法としてどのような方法が有効だったか。
- ① ペア学習やグループ学習を通して、自分では気付けない部分について他者から客観的なアドバイスが得られるため、その後の行動に改善が見られたり、意欲の向上につながったりした。
 - ② グループ活動後に、各班から出た意見を全体で共有する時間を設けることで、様々な考え方が存在することに気付かせることができ、思考力の向上に効果が見られた。
 - ③ グループの人数は、3、4人が有効であると考え教科が多かった。また、グループ活動をする際、リーダーなど役割を決めることで助け合いや教え合いなど活動がより円滑に進み、その後の活動意欲や成果に大きな差が生じることが分かった。

- (3) 「学びの達成感や新たな課題を見いだす力を育成するため、どのような振り返りを実践し、どのような結果が得られたか」
- ① 「学習カード」等を活用し、自分自身の学びや成果について考えさせる時間を確保したことで、学びの改善や意欲の向上につながった。
 - ② ワークシートに「ねらい」と「振り返り」を位置づけたことで、授業のポイントや身に付けたい力を明確にすることができた。また、授業の反省を文章で書かせることで、教師も自身の授業を省み、その後の授業改善に役立てることができた。
 - ③ ルーブリックや CAN-DO リストを用いて評価の観点を可視化することで、意欲の向上やフィードバックの促進につなげることができた。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① ICTを活用し、映像や表、グラフ等の資料を提示することで、生徒の学び意欲や課題意識を高め、話合い活動や言語活動の幅を広げることができた。
- ② 学習活動に応じて、ペア活動やグループ活動を効果的に取り入れたことで、生徒同士のコミュニケーションが円滑に進み、思考力・表現力の向上につながった。
- ③ 各単元・授業ごとの「振り返り」が定着し、課題の発見につながる「振り返り」を実践したことで、自分達で課題を見つけ、より高い目標を目指して努力しようとする姿が見られるようになってきた。また、教員も振り返りの結果をふまえて授業改善が図れるようになってきた。

(2) 研究の課題

- ① 学習形態が固定化してしないように、単元の内容にに合わせて、有効な学習形態について研究していく必要がある。また、学習内容によっては、隣同士やグループの枠を越えた自由な話合い活動ができるよう、より効果的な学習方法について今後も模索していく。
- ② 考えがより深まるよう、補助発問の仕方について更に教材研究を進めていく。
- ③ 今年度から導入された iPad を様々な場所や場面で活用していけるようにしていくことが必要である。